

神経内科：多発性硬化症

39-088 多発性硬化症で誤っているのはどれか。

1. 発症は15歳から50歳までが多い。
2. 男性に多い。女性
3. 高緯度地域に多い。
4. 視力障害が高頻度にみられる。
5. 症状の寛解、再燃がある。

42-085 多発性硬化症で正しいのはどれか。

1. 階段状に増悪する。寛解と増悪をくり返しから進行
2. 温熱によって症状が悪化する。
3. 深部腱反射が消失する。亢進する。上位運動ニューロン障害
4. 50、60歳代で好発する。15~50才
5. 女性より男性に多く発症する。
男性 女性

43-064 多発性硬化症に特徴的な痛みはどれか。

2つ選べ。

1. テタニー様痙攣に伴って生じる四肢の放散痛
2. 頭部前屈に伴って生じる背部下方への電撃痛 レルミット徴候
3. 食後に生じる胸背部鈍痛
4. 上肢と手指の発赤を伴った疼痛
5. 歩行を困難にするしびれを伴う下肢の疼痛

47-A-089 脊髄小脳変性症にみられにくく、多発性硬化症に特徴的なのはどれか。

1. 痙縮
2. 運動失調
3. 嚥下障害
4. 構音障害
5. 有痛性痙攣

脊髄小脳変性症では障害される部位に於いて、運動失調、全身体路障害、10-キリン症候群が出現する。
両方にみられる。

47-P-089 多発性硬化症について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 男性に多い。女
2. 発症は50歳代に多い。15~50才(若年者)
3. 脱髄病変がみられる。
4. 視力低下が出現する頻度が高い。
5. 運動負荷に制限を設ける必要はない。過負荷は症状を悪化させる。(特に増悪期)
がある。

多発性硬化症

- ・ 15~50才、女性にやや多い
- ・ 中枢神経の脱髄疾患
神経繊維の障害
- ・ 空間的多発：大脳、脳幹、小脳、
脊髄のあちこち
- ・ 時間的多発：寛解と増悪をくり返す
- ・ 初発症状としては、視力障害や
しびれなどの感覚障害が多い
- ・ 特徴的な徴候

Lhermitte (レルミット) 徴候
頭部前屈 → 背部に電撃痛

有痛性強直性けいれん
テタニー様の有痛性けいれん

Uhthoff (ウートフ) 現象
体温上昇 → 症状悪化

※ 温熱は禁忌
その他 痙攣(腱反射亢進)